

会議録（要点記録）

令和 7・8 年度 堺市南区政策会議 第 5 回全体会	
開催日時	令和 8 年 6 月 30 日（火） 17 時 30 分～19 時 05 分
開催場所	南区役所 2 階 201・202 会議室
出席 構成員 (敬称略)	大島 知子（堺市南区校区福祉委員会 会長） 岸本 啓司（堺市南区自治連合協議会 会長） 木谷 利治（堺市南区民生委員児童委員協議会 会長） 宮岡 愛子（公募） 近藤 誠司（関西大学社会安全学部 教授） 谷口 拓峰（幼保連携型認定こども園 竹城台東保育園 園長） 芳賀 敬子（堺市立桃山台小学校） 品川 隆一（堺市立晴美台中学校 校長） 富田 知里（株式会社 NANKAI 沿線づくり戦略本部 泉北事業部 課長） 鈴木 京子（国際障害者交流センタービッグ・アイ 副館長）
事務局 (市職員)	南区役所 区長、副区長、南保健福祉総合センター所長 企画総務課長、企画総務課、自治推進課長、 市民課長、保険年金課長、生活援護課長、地域福祉課長、 子育て支援課長、南保健センター所長泉北ニューデザイン推進室 事業推進担当課長、スマートシティ担当課長
議題	(1) 会議スケジュール及び議題 (2) 「3 つの方向性評価シート」に関する構成員の評価 (3) 堺市南区基本計画に基づく事業の実施と評価方法 (4) 令和 8 年度の実施事業 (5) ブランド戦略の展開 (6) その他

配付資料	・次第 ・配席図 ・資料 1 令和 8 年度区政策会議の予定及び議題 ・資料 2 「3 つの方向性」の構成員評価（要約） ・資料 3 全体進捗管理シート ・資料 4-1 個別シート（安全・安心） ・資料 4-2 個別シート（子育て・教育・健康長寿） ・資料 4-3 個別シート（ブランド戦略） ・資料 5-1 南区ブランド戦略について ・資料 5-2 ブランド戦略の展開について
------	---

審議状況	開会（17 時 30 分） 1 開会 南区長挨拶 2 議題（1）会議スケジュール及び議題について 3 議題（2）「3つの方向性評価シート」に関する構成員の評価 ＜資料 1 に沿って事務局から説明＞ 近藤座長 今年度の会議は、議論の内容を予算へ反映させていきたいとの説明がありましたので、重要な位置付けであると考えています。具体的なアイデアや、改善に向けた前向きなご意見を積極的にいただければと思います。 資料 3、2 ページ目、「「みどりとともにかなえる豊かなくらし」をカタチに」という部分について、このイラストが南区の政策をイメージ化したものとして示されています。 基盤となる部分に安全・安心があり、その上にウェルビーイングに関わる子育て、教育、健康・長寿が位置付けられています。そして、それら全体を緑のイメージを活用したブランド戦略によって発展させていこうという構成になっています。 資料 2 は、昨年度の第 3 期前半時点の構成員の評価を確認したということになります。 資料を見ますと、全体として比較的穏やかな評価が見られる一方で、ブランド戦略ではやや厳しめの評価も見受けられます。この点については、本日の議題である「（5）ブランド戦略の展開」において、議論を深めていきたいと考えています。 まずは資料 2 の内容を振り返り、追加しておきたい意見やコメントはありますか。 岸本構成員 先ほど座長からお話がありましたが、構成員の A 評価が多いということは、これ以上ないという受け取り方にもなりかねません。そのため、A 評価ばかりが並ぶことにあまり意味はないのではないかと思います。 むしろ、B 評価や C 評価があつてこそ、そこからさらに伸ばしていける部分が見えてくるのではないかと考えています。A 評価を付けられた方は、それだけ高く評価されたのだと思いますが、その評価に満足することなく、次にどうしていくのか、どのような方向をめざしていくのかということを引き続き考えていただきたいと思います。 そうでないと、「これ以上は上がらない」ということになってしまいかねず、その点に少し危機感を持っています。
------	--

近藤座長

南区の施策は大きく３つの柱で構成されていますが、それぞれの方向性に基づく個別具体の取組内容を改めて確認するとともに、現在の進捗状況や評価について共有するため、次の議題に移りたいと思います。

議題(3)、(4)では今後の施策展開に関わる重要な個別事業の内容が含まれていますので、まず事務局から説明をいただき、その後、それぞれの事業をどのように評価し、今後どのように進めていくべきか、また改善すべき点はないかといった観点から議論したいと思います。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

４ 議題（３）堺市南区基本計画に基づく事業の実施と評価方法

５ 議題（４）令和８年度の実施事業

＜資料 3、資料 4-1～4-3 について事務局から説明＞

近藤座長

改めて資料 3、2 ページ目ですが、大きな樹木が南区の理念を表したイメージ図となっています。安全・安心を基盤として、その上に子育て、教育、健康・長寿が位置付けられ、それらを含めて南区のブランド戦略を展開していこうという考え方が示されています。

先ほどの岸本構成員のお話を踏まえると、この樹木にはまだ伸び代があり、さらに成長できる大木になるはずだと言えると思います。

この理念を具体的な施策に落とし込むと、個別具体の取組になります。そして、その個別具体の取組を皆で評価していくことになるわけですが、その中身についてもう少し議論を深めることで、より良い評価や事業の改善につなげていける可能性があると思います。

そこで、ここからは構成員の皆様からコメントをいただきたいと思います。

品川構成員

晴美台中学校校長の品川です。

中学校区における防災の取組ですが、晴美台中学校区には複数の小学校があり、地域毎に防災に対する取組や意識には違いがあると感じています。

防災意識の高い校区では、防災士の資格を持つ方が複数おられ、そのような方々が中心となって取組を進めている事例もあります。

また、中学校と小学校では避難形態やあり方が異なる部分もありますので、中学校がハブの役割を担いながら、関係する小学校をつなぎ、防災計画を検討していくことが重要であると考えています。

現在、堺市では学校の新たなあり方として、中学校区を一つの単位とする「学校群」の取組を進めています。小学校と中学校が連携しながら、日常的にさまざまな活動を行っていますので、そのような取組の中で、防災教育や防災に対するこどもたちの意識をどのように高めていくかという視点も、学校教育と関連付けながら進めていく必要があると考えています。

そして、中学校や小学校のこどもたちの防災意識が高まることで、地域に派生し、防災に対する関心や意識の向上につながっていくのではないかと考えています。

近藤座長

もう1点、お伺いします。

防災というテーマだけで考えると、地区防災計画や中学校区・小学校区において、児童・生徒の命をどのように守るかという議論が中心になると思います。

一方で、資料4-2の内容も踏まえると、要配慮者にあたる妊産婦の方や地域の高齢者の方が避難所を利用されることも考えられます。

そのような観点からお聞きしたいのですが、福祉施策と防災教育、あるいは防災の取組は、現場において相互に連携しながら進められているのでしょうか。例えば、要配慮者への支援という視点を踏まえた防災教育や避難所運営の考え方など、福祉と防災がクロスするような取組は行われているのでしょうか。

品川構成員

福祉施策と学校教育活動が直接リンクしているかという点、現状では接続しにくい部分があると感じています。ただ、晴美台校区においても高齢化が進んでおり、防災に関する取組を行おうとしても、なかなか人が集まらない、あるいは防災の取組をさらに充実させようとしても担い手が不足していて実施できない、といった課題があります。

校区の方々からは、中学生にも参加してほしいという声が多く聞かれます。

そのため、小学生や中学生が防災意識を高め、自分たちが校区の防災を担っていくんだという意識を持つことができれば、防災の取組だけでなく高齢者支援などの福祉の分野にもつながっていくのではないかと考えています。

芳賀構成員

桃山台校区でも、地域の皆様が自主防災訓練に取り組まれていることは認識していますが、学校がその取組へ参加することは容易ではなく、学校側が多忙であることも一因としてあるのではないかと感じています。

一方で、日頃の教育活動を通じて地域の方々に関わる機会を持つ動きは進めており、先日、4年生が茶の湯の学習を行った際には地域の方々に来校いただきました。

地域住民との交流や学習活動を通じて、こどもたちが地域に支えられていることを実感し、防災も含めた地域との関わりを意識できるよう取り組んでいます。

また、小学生の段階で福祉というテーマまで発展させることは簡単ではありませんが、地域の方々の役に立ちたいという気持ちはこどもたちなりに持っています。その思いを今後も育てていきたいと考えています。

さらに、「誰一人取り残さない」という観点では、本校では1割以上が外国籍の児童です。そのため、防災行政無線などで発信される内容が、たとえやさしい日本語であったとしても、保護者やこどもたちに十分伝わるのか不安を感じています。

やさしい日本語による情報発信の充実や、多言語化を含めた情報伝達手段を整備することが必要であると感じています。

岸本構成員

三原台校区では、海外にルーツを持つ方も多く居住されており、災害時の避難誘導などさまざまな課題があると感じています。私たちも外国語で十分に対応できるわけではないため、片言の英語などを使いながら何とか意思疎通を図っているのが現状です。

また、防災教育では、三原台小学校の4年生を対象に、防災士や、市の防災担当と連携しながら継続して実施しております。今年度からはPTAにも参加いただき、防災授業を実施する予定です。

防災や地域活動を進めるためには、学校だけでなく地域全体で取り組む意識が大切だと思っています。また、高齢者をはじめ、さまざまな状況の住民がおられる中で、誰一人取り残さないようにすることは重要ですが、現実的には難しい面もあります。

取り残される人を少しでも減らすための方法を引き続き検討していきたいと思っています。

谷口構成員

保育園における防災の取組では、保護者同士の関わりを大切に活動が行われており、「誰一人取り残さない」という理念の実現に向けた姿勢として、大変意義のあるものと感じています。一方で、保護者同士の交流機会が減少しており、仕事等で多忙な家庭が増える中、地域や保護者同士のつながりの希薄化が課題となっています。

誰一人取り残さないためには、人と人とのつながりが重要であり、負担感なく関係性を築けるような仕組みが必要ではないかと思っています。

また、こどもの防災教育は、継続的な取組によって一定の成果が見られるものの、「守られる側」の意識が中心であるため、今後は、自ら考え行動する主体的な意識を育む取組へと発展させていく必要があると考えております。

近藤座長

資料 4-2 に関連して、子育て世代、特に子育てを始めたばかりの保護者に対する講演会やイベントは、参加率の向上が課題となっております。

保育園や幼稚園に通う世帯でも、日常的に多忙であることを踏まえると、従来型の講演会形式が適切であるのかについても疑問が残ります。

どのような手段を用いれば若い世代に効果的に情報を届けることができるのか、谷口構成員は現場で工夫されていることはありますか。

谷口構成員

ポジティブ・ディシプリンは、有意義な取組であると感じました。ただ、このプログラムは複数回にわたる講座のため、家事や仕事、子育てに忙しい保護者には参加のハードルが高い面があると思います。

また、現在の子育て世代は、親になるまで子どもと関わる機会自体が非常に少なくなっており、保護者自身が子どもとどのように向き合えばよいのか悩む場面も多くなっているのではないかと思います。

一方で、講演会や講座への参加よりも、SNS を通じた相談や情報交換を選ぶ傾向が強まっていると感じており、保護者の実情に合わせた情報発信や支援のあり方を考えていく必要があるのではと思います。

大島構成員

当校区では、子育てサロンを定期的に開催しても参加者がいない状況が続いています。

そのため、子育てサロンのあり方について見直し、子育て中の保護者が参加しやすい内容となるように工夫しています。

具体的には、子育て中のお母さん方の関心を踏まえ、薬膳料理をテーマにした内容を実施するなど、保護者が参加しやすい環境を整えることで、子育て世帯とのつながりを深めていきたいと考えています。

近藤座長

その取組はどのような方法で周知を行っているのでしょうか。

大島構成員

回覧で周知しても、なかなか見ていただけないのが現状です。

また、掲示板に掲示しても実際にどの程度見ていただけているのか分かりません。そのため、Instagram に掲載した方が比較的見ていただけるのではないかと考えており、校区のアカウン

トを通じて地域の取組を発信しています。

防災については、今年度から三原台校区と中学校区単位で連携して協議する体制が整い、今後の取組の推進に期待しています。

一方で、避難行動要支援者への対応には課題もあります。堺市からは、「可能であれば災害時に見守りをお願いしたい」という形で対象者の情報をいただいています。実際には一人ひとりを見守ることはなかなか難しい状況です。

そのため、当校区では要支援者の方がお住まいの場所を地図上に落とし込み、災害時に活用できるよう取り組んでいます。また、独居の高齢の方についても同様に地図へ反映しており、何かあった際の安否確認に活用できればと考えています。

また、「M&GREENs」ですが、グッズが作成されたことで認知が広がりやすくなったと感じています。ロゴマークだけでは伝わりにくい部分もあるため、グッズを活用した情報発信は効果的だと思います。

木谷構成員

防災の取組について、各校区で個別に話し合いを進めていくことは難しい面があり、モデルとなる事例を示しながら展開していくことが必要ではないかと考えています。

また、地区防災計画の策定や訓練の実施に加え、自助による身の安全の確保と安否確認体制の構築が特に重要であり、要支援者の支援についても、まずは自身や家族の安全を確保した上で取り組む必要があると考えています。

さらに、「M&GREENs」ですが、緑道ウォーキングはかなり浸透してきているのではないかと感じており、健活キャラバンと組み合わせた取組も、健康増進と地域資源の活用を結び付ける事業として良い方向に進んでいるのではないかと考えています。

鈴木構成員

情報弱者といわれる方々への支援については、助けを求める以前に、まず災害が発生したこと自体を認識できるか、また、その情報が本人に届くかという課題があると思います。障害のある方の場合、そうした点が大きな課題になるのではないかと考えています。

障害の特性や言語の違いなど、多様な状況を踏まえて、やさしい日本語だけでなくイラストやピクトグラム、音声などを活用した多様な伝達手段を整備することが必要だと思います。

また、「誰一人取り残さない」という観点から、各事業において障害のある方がどの程度参加できているのかを把握することも必要ではないかと感じています。加えて、子育て世帯や障害のある方など、対面参加が難しい方への対応として、動画配信やアーカイブ配信の活用も有効であると考えています。

さらに、事業評価における「質の向上」は、私自身も難しさを感じていますが、その具体的な

内容や評価方法を明確にする必要があると思います。

実施回数や参加人数だけでなく、事業による意識や行動の変化を把握することで、より実態に即した成果や課題が見えてくるのではないかと考えています。

近藤座長

ピクトグラムの活用や情報保障の視点は、防災だけでなく教育にも関わる重要な課題であり、こどもたちと一緒に分かりやすい情報発信のあり方を考えるワークショップのような取組も有効ではないかと感じました。

また、高齢者というカテゴリーで一括りにしてしまうと、その中の障害のある方の存在が見えにくくなってしまいます。高齢の障害者の方もおられますし、加齢に伴って手足が不自由になったり、難聴になったり、視力が低下したりするなど、途中から障害を抱える方もおられます。

その意味では、障害者施策と高齢者施策は、重なり合う部分も多いと思いますので、統計の取り方や集計方法について工夫の余地はあると感じました。

また、事業の「質」の評価は非常に難しい課題だと思います。満足度だけでは地域にどのような変化が生じたのかを十分に把握できない場合もあります。

そのため、「南区に魅力を感じるか」「南区に愛着を感じるか」といった視点を継続的に確認していくことで、数値だけでは見えない質の部分を把握できるのではないかと感じています。

宮岡構成員

防災の取組は現場の課題を把握しながら進めていくことが重要であり、学校現場から示された課題は非常に参考になりました。また、地域の防災力向上のためには、こどもたちの防災意識を高め、将来的な地域防災の担い手として育成していくことが重要であると感じています。

まずは、自らの命を守ることを基本としながら、その先に高齢者支援や地域の見守りにつながる意識を育んでいくことが大切で、そのためにも学校や地域における学びの機会を充実させる必要があると考えています。

また、資料 4-1 ですが、地域ごとに状況や特性が異なることから、取組の進捗に差が生じることは自然なことであり、一律の進め方を求める必要はないと感じています。

さらに、講演会などに人を集めることが難しくなっている現状を踏まえると、学校や地域活動の場など、人が集まっている場所へ出向いて取組を行う視点が今後ますます重要になるのではないかと考えています。

近藤座長

ありがとうございます。

富田構成員にはこの後のブランド戦略に関する議論の際にもご発言をお願いしたいと考えておりますので、まずはそれ以外の部分についてご意見を伺いたいと思います。

本日の防災やウェルビーイングに関する議論は、比較的客観的な視点でお聞きになっていたものと思います。地域コミュニティの現状や課題についても、本日の議論を通じて感じられたことがあったのではないのでしょうか。

富田構成員

今回から会議に参加させていただく富田です。私は、要綱上の区分では「区民の生活に密接に関わる民間事業に携わる者」という立場で参加しております。その立場からどのような意見を申し上げることができるかを考えながら、皆様のご意見を拝聴しておりました。

私どもは、健康・長寿の取組として「ヘルスマート泉北」というアプリを展開しております。このアプリは、泉北エリアの皆様の健康寿命の延伸と、高齢の方々の外出するきっかけになればという思いから導入したものです。

現在、約 1 万 7,000 人の方にご利用いただいております。歩数に応じたポイント付与や、ランキング機能を設けております。ランキング上位をめざして継続的に利用されている方も多くおられます。

また、先週末に「ヘルスマート泉北」で貯めたポイントをギフト券やグッズと交換できるイベントを実施いたしました。当日は天候が悪く、どの程度の参加があるか懸念しておりましたが、予想を上回る多くの方にご来場いただき、「外出するきっかけ」という点については、一定の効果が表れているものと感じております。

特定健康診査の受診率向上といった指標に直接寄与することは難しい面もありますが、区民の皆様が健康で元気に暮らし続けられるよう、民間事業者として引き続き貢献してまいりたいと考えております。

近藤座長

「ヘルスマート泉北」のようなアプリや、民間事業者による広報活動の中で、南区の施策と連携できる部分があれば、双方の取組の周知やプロモーションにもつながるのではないかと感じました。それでは、次の議題であるブランド戦略について進めたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。

6 議題（5）ブランド戦略の展開

<資料 5-1 について事務局から説明>

近藤座長

ブランド戦略に関する取組全体について、もう一度資料 3 に立ち返ると、ブランドロゴマークの認知度という外形的な評価と、「南区に愛着を感じるか」「魅力を感じる都市だと思うか」といった内面的な評価の両方につながっていくものだと思います。

本日の議論を通じて、防災や子育て、地域福祉など、それぞれの分野でかなり多くの取組が進められていることは十分理解できたのではないかと思います。その上で、例えば、この「M&GREENs」シールも二次元コードを読み取るとInstagramへアクセスできるようになっています。発信内容を見ると、南区の風景写真などが数多く掲載されていますが、それだけで十分なのかという点が、本日の議論の中で一つ問われたのではないかと感じています。

Instagramは景観や魅力を発信するツールとして有効ですが、それに加えて、防災や子育て支援、地域活動といった重要な施策や取組を分かりやすく伝える媒体としても活用していくことが必要なかもしれません。

そこで、富田構成員にも改めてお伺いしたいと思います。

ブランド戦略は今回初めてご覧になった部分もあったかもしれませんが、全体をご覧になってどのように感じられましたか。ご意見をお聞かせいただければと思います。

富田構成員

私は本年 3 月末まで株式会社パンジヨに在籍しており、当時は「M&GREENs」の取組について十分に認識していたわけではありませんでした。4 月の着任以降、さまざまな形で情報に触れる機会が増え、改めて多くの取組が実施されていることを知りました。

一方で、自身の経験からも、こうした取組を一般の方々に広く伝えることは非常に難しいことであるとも感じております。本日の議論を通じて、南区では多様な取組が進められていることを改めて認識いたしましたし、今後はそれらの内容をどのように住民へ効果的に伝えていくかが重要であると感じました。

近藤座長

ちなみに、タイアップが可能な場面はあるのでしょうか。イベントでの連携でも構いませんし、媒体を活用した情報発信でもよいと思います。また、このようなプロモーションロゴを活用することによって、それぞれの組織にとってメリットのある形で取組を展開していくことも考えられるのではないのでしょうか。

富田構成員

可能性が全くないというわけではないと考えております。ただし、連携を進める上では、双方にメリットがあることが重要であると認識しております。我々が有する資源や強みと、南区が進めている取組と効果的に結び付くことで、相乗効果を生み出せるかどうかが前提になると考え

	ております。 近藤座長 ありがとうございます。品川構成員、これ学校の現場でどうでしょう、どれぐらい目にすることがあるでしょうか。 品川構成員 学校現場でこうした取組に触れる機会がないので、学校へ戻って周知させていただきます。 近藤座長 芳賀構成員はいかがですか。 芳賀構成員 和泉市との交流人事で来られている先生が、「M&GREENs」のポロシャツを着ていました。 近藤座長 日常の中で「M&GREENs」に触れる機会が増えれば、「M&GREENs ってなんだろう」と関心をもつ人も増えていくのではないかと思います。認知度の向上という段階を早く終えて、その先にある取組の内容や理念についての議論へ発展させていけるとよいと感じています。現場でこれをもっと活躍した方がいいのではないかという意見はありますでしょうか。谷口構成員いかがでしょうか。 谷口構成員 「M&GREENs」シールを南区の保育園や小学校に配布すると良いと思います。こどもたちの持ち物などに活用できれば、自然と触れる機会が増え、保護者にも認知していただくきっかけになるため、認知度向上にもつながるのではないかと思います。小学生が使うようなグッズ、消しゴムや鉛筆があると良いなと思いました。 近藤座長 ぜひ防災資機材にも「M & GREENs」のマークを入れていただき、自然に触れる機会を増やすと良いと思います。 このマークは単に緑を表すものではなく、暮らしの安全・安心や豊かさ、健康といった南区のめざす方向性を示しているものだと思います。そのため、防災に限らず、さまざまな場面で活用
--	--

することで、より認知が広がり、理念への理解も深まるのではないかと思います。

7 議題（6）その他

企画総務課長

本日、皆様のお手元に「M&GREENs」のステッカーなどを配布しております。ご活用いただける場面がございましたら、追加でグッズをお渡しすることも可能ですので、周知啓発へのご協力をお願いいたします。

閉会（19 時 05 分）